

アサクサノリ養殖品種の作出

岩出将英・畑 直亜・羽生和弘

目的

三重県の黒ノリ養殖業は、高齢化や生産者価格の低迷、経営コストの高騰などにより衰退の一途をたどっている。そのため、黒ノリ養殖業の再建に向けて生産者の経営基盤の改善や収益性の向上を図り、経営の安定化に資する取組を行う必要がある。その方策のひとつとして他県製品との差別化を図り、競争力のある三重県産ノリ製品を生産できる新しい養殖生産体制の構築が挙げられる。

本事業では、全国でもごく一部の地域でわずかにしか養殖されていないアサクサノリ (*Pyropia tenera*) に注目し、付加価値のある製品を作出するため、アサクサノリの養殖試験を試みる。

方法

1. アサクサノリ養殖試験

昨年度までに作出したアサクサノリ養殖株のフリー糸状体を大量培養し、ホタテ殻 10,000 枚に移植させた。ホタテ殻糸状体の維持管理は、伊曾島漁協種苗センターで行った。また、養殖試験網への採苗は、伊曾島漁協所有の陸上採苗施設において実施した。試験養殖は、桑名・松阪・伊勢（今一色）地区において海水温が概ね 19℃以下に低下してから開始した。

2. アサクサノリ品質調査と共販出荷

生産されたアサクサノリ板ノリ製品について、三重大学と共同開発した PCR 種判別法（柿沼ら, 2015）を用いて板ノリへのスサビノリの混入について調べた。アサクサノリ板ノリ製品の遺伝子検査および食味検査を行い、一定の基準をクリアした製品のみ「伊勢あさくさ海苔®」として共販出荷された。

結果および考察

1. アサクサノリ養殖試験

養殖試験には、桑名地区（22 名）・松阪地区（1 名）・伊勢地区（1 名）の生産者が参加した。養殖試験網数は、3 地区合計で 946 枚（昨漁期 834 枚）であった。養殖試験網の張り込みは、地先漁場の平均海水温が 19℃以下となった 11 月 4 日から順次開始されたが、張り込み直後に急激な水温上昇があり、11 月 13 日頃にかけて平均水温の停滞があった（図 1）。

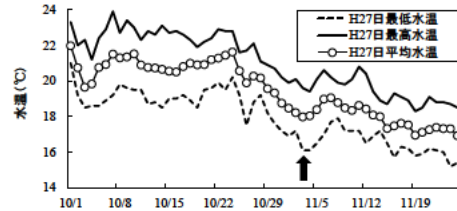


図 1. 桑名地区のアサクサノリ漁場の水温（国交省水文水質データベースより）↑は張り込み開始日

3. アサクサノリ品質調査と共販結果

生産された製品の遺伝子検査と食味検査の結果、養殖試験を行った 24 生産者のうちアサクサノリ製品を生産・出荷できたのは桑名地区の 4 生産者のみであった。多くの生産者が出荷できなかった主な原因については、張り込み直後の高水温の影響による生長不良が考えられた。生産された製品を柿沼ら(2015)によって PCR を行った結果、2 生産者（生産者 C, D）の製品でスサビノリの混入が確認された（図 2）。

アサクサノリ板ノリ製品は第 4 回共販（1 月 29 日）に約 4 万枚が出荷された（昨年度漁期 18 万枚）。最高落札価格は 120 円/枚で、昨年度の 85 円/枚に比べて 35 円高くなり、平均価格も 98.7 円/枚と昨年度の 26.2 円/枚より高くなり高評価を得た。

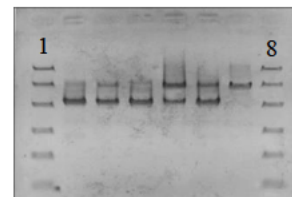


図 2. アサクサノリ板ノリ製品の PCR 泳動写真（レーン左から 1. マーカー Gene Ladder Fast2※フラグメントサイズは、100, 500, 1000, 2000, 4000, 10000bp 2. と 3. 生産者 A, 4. 生産者 B, 5. 生産者 C, 6. 生産者 D, 7. ネガコン（スサビノリ）、8. マーカー Gene Ladder Fast 2）

関連報文

柿沼誠・平壮雄・岩出将英. アサクサ板ノリの品質管理・評価技術の開発—PCR による板ノリ中のアサクサノリ含量の簡易定量—. 日水誌, 2015, 81(5), 817-825.
岩出将英・林茂幸・羽生和弘(2015) 平成 26 年度三重県水産研究所 事業報告 5-5